

諏訪小だより

令和3年4月6日
4月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

大いなる期待をもって一年度当初にあたりー

私事で恐縮でございます。

3月末、私は初めて本校に伺いました。校庭が広い、空が澄みわたっている、裏にはウサギがいる、このような発見が私を少なからず興奮させました。「きっと素敵な教育活動ができる」、そんな期待をもちました。

御子様の御入学、御進級、誠にとおめでとうございます。私共多摩市立諏訪小学校は、本日447人の御子様を改めてお受けいたしました。

私は、杉浦 真史 前校長の後任として着任をいたしました、齋藤 幸之介と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

コロナ禍での厳しい状況が続いても

昨年度は、入学式・始業式の直後におよそ2ヶ月の休校となりました。登校が再開してもしばらくの間は分散登校、また子供たちからは多くの教育活動を奪わざるを得ない状況でした。

3月22日に解除となった緊急事態宣言後、新型コロナウイルスに感染した人数は増えています。これからも、子供たちにはこの予防をすべく多くのことを強いていかなければなりません。また、安全で安心できる環境づくりのために、私共は改めて何をすべきかを確認しているところです。

一方で、現在の学校は少しずつその姿を取り戻し、また「学びを止めない」などと言い、できることを確実に進めていくことが求められています。

今後皆様には改めてお願いすることも出てくるかは存じますが、子供たちの教育活動のために御理解と御協力を賜りたく、お願いをする次第です。

新しい教育活動を確実に進めていくために

昨年度より教科書が一新されました。御案内の通り、これは学習内容等を示す学習指導要領が新しくなり、これに則った教育活動を行う一環として位置付けられます。私共は、子供たちの学びが深まるように、一人一人が進んで学び、また友達と関わりながら自ら考えたり判断したりできる姿を目指していきます。そのために、平素の教育活動を確実に推進していきたいと考えています。

また、多摩市では、子供たちが「これからの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現すること」を目指す教育を掲げています。これは、SDGsに通じることでもあり、子供たちが社会の発展に具体的に組み込む資質や能力を育成する、という「ダイナミック」な教育であると捉えられます。

この、理想とも言うべき方向に向け、焦ることなく確実に歩みを進めていきたいー私はそう考えるのですが、皆様はどうお考えになりますか。

諏訪小学校すべての子供たちが活躍できるように

昨今の教育課題でもありますが、正直「いじめ」や「不登校」はなかなか0にはなりません。また、様々な課題を解決しながら、誰もが共に学び、活動できることも求められています。私共の使命は広くまた深い、と改めて認識をしているところです。同時に、本校の全教職員は、すべての子供たちが活躍できることを切に願い、そのために努力をしようと確認をしたところです。私共は、一人一人の子供たちを丁寧に見つめながら適切な手立てを講じ、そして子供たちが安心して活動できるようにしたいと考えております。

先程申し上げた新しい学習指導要領には、時折「多角的な」という表現が用いられています。「様々な立場」を意識した表現である、と読み取ることができます。皆様の御意見やご要望を受け止めながら、私共も御理解を得るべく情報を発信したり御相談を申し上げたりすることがあるかと存じますが、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

年度当初より文章が長くなりました。すみません。しかし、これも冒頭に申し上げた私の期待感故、とお許しただけだと存じます。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。